さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

丹波山・丹波小　特産マイタケ 全校で栽培

私の学校 イチ推し!! ㉙

村の自然や文化知る機会



マイタケを収穫する児童　＝丹波小

・**所在地**　丹波山村2777
・**全校児童**　19人
・**創立年月**　1875年5月
・**学校教育目標**
心やさしく、健康で、自ら学ぼうとすることも

丹波山村の丹波小は、村特産のマイタケの栽培に取り組んでいる。全校児童が「マイタケ小屋」で、ほだ木の伏せ込みから収穫までを体験。栽培を通じ、村の自然や文化を知る機会になっている。

9月25日、今年初の収穫が体育館裏の小屋で行われた。多雨の影響もあってか、今年は豊作。参加した4年生は、マイタケを手に「大きいね」と笑顔を見せた。10月中旬までに学年ごとに収穫し、全員が家に持ち帰った。給食にも登場し、炊き込みご飯を満喫した。

同校によると、マイタケは少なくとも30年前には栽培されていたという。広さ7平方㍍の栽培小屋が三つあり、1年に1カ所ずつ使う。5月下旬、上級生が前年使った小屋の株を掘り起こす作業から始まる。6月上旬にかけ全校児童で約40株を伏せ込み、土の上に木の葉をかぶせる。

授業でも、さまざまな角度からマイタケを学ぶ。生物としての特徴や地産地消、村特産品など各学年でテーマが変わる。丹波中でも栽培は続き、小中9年間で学びを深めている。

生産加工を手がける農事組合法人「丹波山倶楽部」がほだ木の用意から栽培指導まで全面的に協力。児童が社会とつながる場にもなっている。

6年の槙田有雅さんは「今年は大きいのが採れた。色は例年に比べて薄く、太陽があまり届かなかったからかなと思った。スープにして食べ、とてもおいしかった。これからも栽培したい」と話す。

村は、一人一人の個性を尊重し、他者と共生する力を育むことを重視する「イエナプラン教育」を取り入れたコンセプト「丹波山式ゆるイエナ」を実践する。雨宮宏幸校長は「マイタケ栽培は『本物』を五感で味わい、自身と地域社会の未来を拓くというイエナの理念にも一致する。今後も続き、子どもたちの成長につながるよう期待している」と話している。

〈竹川元久〉

＝第1、3土曜日に掲載します

（2026 年 11 月 7 日付 山梨日日新聞 17 面）

問1 丹波小は、マイタケの栽培に取り組んでいます。児童は、どのような作業を体験していますか。

……

問2 収穫したマイタケは、どのように利用されましたか。2つ答えてください。

・……　・……

問3 マイタケ栽培が児童にとって大切な学習になっている理由を答えてください。

……

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.